

CHOTO エコキュート がやってきた

○特別養護老人ホーム うずらはし (新潟県五泉市) お湯をたくさん使う入浴スタイルに対応

新

新潟県五泉市に、2008年4月にオープンした特別養護老人ホーム「うずらはし」は、木造平屋建てで、日本家屋の温かみと懐かしさを感じられる定員29名の地域密着型の介護老人福祉施設です。

随所に先進的な取り組みを取り入れている同園では、入園するまでの入居者の暮らし方を尊重して「入居者それぞれのライフスタイルや生活リズムに合わせてユニットケアを行い、自宅にいるように過ごしていただきたい」(園長の市川宏昭さんの話)と3つのルールを定めています。

①入居者一律の日課は設けない。
②9〜10人の入居者で構成するユニットごとに専任のスタッフを
おいて家庭的・家族的な信頼関係を築く。

③介護の業務を分業化したり、流れ作業化したりしない。

スタッフはこのようなコンセプトを基に、過ごしやすい施設を実現するために頑張っています。そしてそれをバックアップしているのが、エコキュートをはじめとする最新鋭のオール電化設備です。

うずらはしでは、お年寄りにとって楽しみな日課のひとつであるお風呂でも、入居者のライフスタイル

やお湯もたくさん必要になり、給湯設備の重要度は高まってくるはずですよ」と語っています。

うずらはしでは、そうした給湯ニーズに対応する機器として、浴室用に貯湯量3000ℓのエコキュートを採用しています。また、ユニットごとに貯湯量370ℓのエコキュート3台を配備し、適材適所で活躍しています。

市川園長は、「エコキュートは火を使わないので安全、安心です。また、燃料の補充や法令に基づく点検などをスタッフが行う必要もありません。危険物取扱者などの配置や機械室の設置スペース・工事費などの負担が生じないことも、エコキュートの導入を決めた法人理事会の決断材料だったようですよ」と語っています。

エコキュートのメリットは、それだけではありません。うずらはしを運営する社会福祉法人中東福祉会は他にも、五泉市内で特別養護老人ホームやデイサービスセンター、障害者支援施設等を経営していますが、決算期に経費を比較してみると、光水熱費が他の施設より安くおさえられているのです。

「有資格者配置が不要なことによる人件費や法定点検費用の削減な

どを加味すると、他の施設との差はさらに開くと思います。」と市川園長は語っています。

開園から2年、豪雪の冬も体験したエコキュートは、寒さやハードワークをもとめせず、快調にその役割を果たしています。

入浴サービスの質がますます重視される中、寒冷地でもエコキュートの採用が増えていくことが期待されています。



園長の市川宏昭さん



や希望を尊重し、入浴時間や湯加減を選べます。設計を担当した有有限会社山本建築設計事務所取締役設計部長の神田陸さんは、「老人福祉施設では決まった時間に大勢でいっせいに入浴してもらうサービスが一般的でしたが、最近ではうずらはしさんのように、一人一人のペースのんびりした入浴をしてもらうサービスが注目されています。そんな

